

学校図書館支援通信



176号

令和5年度 市川市教育センター

高谷中学校

学校図書館活用の取り組み

高谷中学校では、同時期に全学年の学校図書館活用が行われました。今回は、その取り組みや教科担任と学校司書の連携についてご紹介します。

1年生「故事成語」

故事成語の意味や由来についてグループごとに調べ、発表する活動
事前に、教科担任が生徒の実態に合わせて本を選出（『故事成語大辞典』監修：三上英司）。学校司書がネットワーク図書配送を依頼し、1グループへ1冊ずつ配付して調べ学習を展開。グループの生徒が同時に学習を行えるように、個人に必要な故事成語のページをタブレットで撮影し、生徒はタブレットを見ながらまとめる活動を行った。



2年生「ブックトーク」

教材『夏の葬列』の読み取り後、3人一組でのブックトーク
事前に教科担任と学校司書で打ち合わせをし、授業の導入時に発表見本として2人でブックトークを展開。（テーマは「戦争」）
生徒はそれぞれ自分の好きな本1冊を選び、グループで共通のテーマを探り、それをブックトークのテーマとして発表を行った。
ブックトークに向けてのグループ活動では学校司書も授業に入り、テーマ設定に関する助言や発表のポイントの説明を行った。



3年生「三大和歌集」

「万葉集」「古今和歌集」「新古今和歌集」から大切な人に贈りたい和歌集を選び、その時代背景や特徴を調べる
学校司書がネットワーク図書配送にて本を収集。
生徒は三大和歌集の中から、大切な人に贈りたい和歌集を一冊選び、資料を用いて調べ学習を行った。
単元の終末では、貯金箱のような投票箱を設置し、自分の気に入った和歌集に一票を投じるような楽しい工夫も。



福袋と開運おみくじ

曾谷小学校の特色は東国分爽風学園として東国分中・稲越小と共に合同で交流できることです。「ふるさと探究科」で同じテーマを持ちながら学習していきます。地域の特性をSDGsと関連付けて学習できるように、昨年度はSDGsの本を新たに90冊増やしました。

合同で交流する試みは昨年度より図書館でも進めており、昨年の読書週間には3校合同の本の総選挙を行いました。今年度は福袋や開運おみくじといった、めでたさいっぱい合同イベントも企画中です。子どもたちが交流を通して新たな発見や、相手を感じる心も育っていただけることを願っています。

市川市立曾谷小学校 学校司書 石川祐子



図書館のSDGsコーナー

「読むことを好きになる、読むことが上手になる、そのためには「読む時間」が不可欠です。私（都丸）が体験してきたスポーツ（野球）にたとえるなら、ボールの投げ方や捕り方を頭で理解しただけでは不十分です。実際にボールを投げたり、捕ったりしなければ上達しません。～略～ 本を読むことも、これらのスポーツと似ています。実際に読むという行為を通してしか、読む力はつきません。そして、自分に合った本に出合う機会がなければ、本を好きになることはないのです。」

（出典：改訂版 読書家の時間 自立した読み手を育てる教え方・学び方【実践編】プロジェクトワークショップ編）

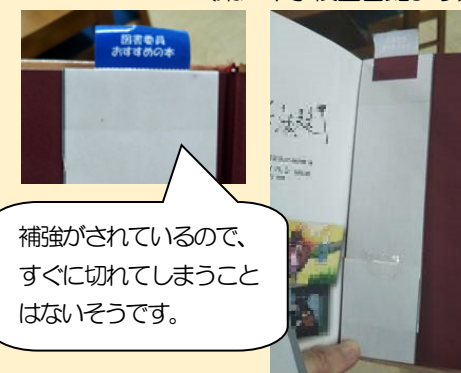
学校図書館の約1万を超える蔵書の中には、きっと、子どもたち一人一人に合った本があるのではないかと思います。それに出会い、周りの音も気にならないほどに本の世界を楽しんでいる子、まだ見つけられずに何となく本を眺めている子…十人十色の子どもたちが、よい読み手として育っていくために、様々な角度から本の楽しさを伝えられる学校図書館は子どもたちの可能性を広げる場だと感じます。
読書の秋、図書館イベント等の取り組みをありがとうございます。

ちょこっとアイディア

コーナー棚に返却しやすい工夫

「図書委員おすすめの本」コーナーの棚から借りられた本が、正しくコーナーに戻るように工夫されていました。

（第六中学校図書館より）



『学校図書館支援通信』は、市川市教育センターホームページでもご覧いただけます。
市川市教育センター 〒272-0015 千葉県市川市鬼高1-1-4
TEL 047-320-3335 FAX 047-320-3352
<http://www.ichikawa-school.ed.jp/index.html>